

---

# 天才ってめんどくせー～シカマルにトリップしました！？～

瞬牙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天才ってめんどくせー！シカマルにトリップしました！？

### 【Nコード】

N2281BA

### 【作者名】

瞬牙

### 【あらすじ】

元閻魔に誤って殺された主人公が、天才児、奈良シカマルとして転生し、なんか元閻魔の息子が忍術にんじゆつじゃなくて魔法（忍術じゃないもの）をつかって、大量（ナルト並）のチャクラと天才的な脳みそと、全遁が使えるようにしちゃったっていう、シカマルがさらにチートなトリップです。原作？大破壊wwな、物語です。

「あ？紹介だ？めんどくせーよんなもの。自分でやれバカ。」

若干毒舌度が増しているような気もしますが、相変わらずめんどくせーなシカマル君です。

転生つてざけんじゃねえよ、、

ここはどこですか…？

私、普通に中学生として育っていたはずなんですけれど…？  
名前…忘れたけど、おかしくないですかね。

だつて、

目の前にヨシノさんとシカクさんがいるんですよ！？

うん、夢か。夢だね。

『夢じゃないって』

うん、夢だ。今のは幻聴だ。幻聴であつてくれ。

『残念だけどさ、夢じゃないんだって。』

「あー幻聴だ、幻聴。俺は何にも聞いてねー。」

『まったく…そんなにいうんだつたら会つてあげるよ！ほら！』

青い髪の少年はあきれたように方をすくめ、両手をかざした。そして一言。

テレポート

空間移動発動

あれ？こつて忍術の世界じゃないのかよ。

そんなことを思っていたらなんだかまぶたが重くなってきた。

「あら、シカマル。おねんねするの？おやすみ。」

ヨシノさんの声が聞こえる。

そして、俺の意識は暗い 影へと落ちていった。

『シカマル！シカマルつてば！起きてよ！』

なにやら声が聞こえる。

『お、やつと僕の存在を認めたね、奈良シカマル。』

「ちっ、」

『いま舌打ちしたでしょ！神に向かって！』

「してねーよ。ちっ」

『ほらまたした!』

「わーった、わーった。から、事情を説明しろ。」

そういえば、ここでは前のように話すことができるようだ。最初に、俺はシカマルじゃねー!!

って叫ぼうとしたときには全く口が動かず、諦めた。

『まあいいか。ここは君の夢の中であり、現実だよ。君は一度死んだ。』

見た目が小学生にしか見えない自称神は、深刻な面持ちで告げた。

「俺が死んだだと?」

俺は自分で分かるくらい素っ頓狂な声を上げた。

当たり前だろう。人間どんな奴だって死んだって聞かされたら驚くだろ。

『正しくいうと、殺された、かな。』

また、自称神は深刻な面持ちで告げた。

「だれにだよ。」

今度は驚かず、冷静でいられた。

『んと、僕のお父さんに?』

「よしおまえさ、父さんの責任とって死ね。疑問形なのがさらにムカついた。」

俺は自称神に近づいていく。

『ちよ、まった!タイム!タイム!』

自称神があわてふためく。

「なんだ、文句あんのか。」

『おおありだよ!!僕が死んだら閻魔様居なくなるじゃんか!』  
必死の形相で叫ぶ。

「え?おまえ、閻魔なの?」

『そう!だから僕を殺したら駄目だって!!』

「親父がいんだろうが。」

『父さんは責任とって神を辞めたよ!神の力を失って、神だった記

憶も失って…ね』

自称閻魔はだんだんテンションが下がっていき、ついには目に涙をためだした。

「あーもーめんどくせー！わーったから、泣き止め！ったく、俺にどーしろってんだよ。」

俺は頭をがしと撫でながらそういうと、ぱつと顔を輝かせて神はいった。

『あのね、奈良シカマルとして生きてほしいんだ。』

「なんでまた、あの天才児なんだよ。」

「だってシカマル、好きでしょう？」

「まあ、そりゃ好きだけど。」

『で、お詫びとして、IQ200はもちろん、原作にはなかったチャクラ量をプレゼントしました！あと、一応全遁つかえるようにもしたんだよ！』

自称閻魔は眩しいくらいの笑顔でいった。

で、ひとつひっかかるのは、

「なんで過去形？」

『だって、君もう生まれてるじゃん。』

「ちなみに、チャクラ量はどれくらいなんだ？」

『九尾と一緒にだよ？』

あっけらかんと言いやがったこのやろう。

「めんどくせーことしてくれたな、このくそ餓鬼。」

と、言いたかった。本来なら。

しかし、あんな子供に（実年齢はしらんが）うれしい？と言わんばかりの顔を向けられたら流石にいえない。

「ああ、サンキューな。」

『うん！どう致しまして！じゃあ、あっちの世界に送るね。いい人生を！』

「ああ、おまえも神様頑張れよな。」

神は俺に掌をあて、低い旋律で唄う。

きっと俺たち人間には出ない音域の、神しか許されていない呪文を唄う。

最後の音を聞いたとき俺は眠りについた。

転生ってざけんじゃねえよ、、（後書き）

はじめましてー

のんびり更新していくつもりです。

まったくストックがないもので…

こんなバカ作者ですがよろしくお願いいたします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2281ba/>

---

天才ってめんどくせー～シカマルにトリップしました！？～

2012年1月5日20時55分発行